

報道関係者 各位

2025年10月20日

取材のお願い

“学生と地域”を絵本がつなぐ — 延べ155人が修了、愛媛唯一の「認定絵本土養成講座」10/26開講 —

松山東雲女子大学では、子どもたちの感性や言葉の力を育み、家庭・地域・社会をつなぐ人材を育てるため、「認定絵本土養成講座」を2025年度も10月26日より開講します。

本講座は2020年度に県内で初めて本学が開講して以来、延べ155名が修了しており、愛媛県内で同講座を開講しているのは現在も本学のみです。学生に限らず、科目等履修生として社会人にも学びの場を提供しており（履修要件あり）、幅広い層が絵本を通じた子ども支援の専門性を身につけています。

修了生は、図書館や商業施設での読み聞かせ会など子育て支援の現場で活躍の場を広げており、2025年12月からは松山市の「こども本の森」でも新たな読み聞かせ企画を開催予定です。

絵本を通じて子どもたちの育ちを支える学びの現場を、ぜひこの機会にご取材ください。

講座開始日： 2025年 10月 26日（日） 10：30～16：10

場 所： 本学 A館1階（A-1-2教室）

受 講 生： 本学学生31名 + 科目等履修生（社会人）3名 …… 合計34名

10/26の
授業内容

2限目（10：30～12：00） オリエンテーションと自己紹介
3限目（13：00～14：30） 絵本とはなにか（絵本総論）
4限目（14：40～16：10） 絵本の歴史や絵本賞について

※特に3限目の「絵本とはなにか」では、「こども本の森 松山」室長であり、認定絵本土の上位資格である「絵本専門士」をお持ちの菅 弥和乃先生を講師にお迎えします。さまざまな種類の絵本をお持ちいただき、それぞれの魅力や特徴についてご紹介いただきます。

◆ 『認定絵本土』養成講座とは — 絵本を通じて子どもの感性を育てる

「認定絵本土」は、絵本を通じて子どもの発達や感性を豊かに育てる専門知識と実践的スキルを身につけた人材です。

国立青少年教育振興機構が策定したカリキュラムに基づき、認定を受けた大学や短期大学などで開講される養成講座（30コマ）を修了することで資格が取得できます。講座では、絵本の歴史や文化的背景、年齢・発達段階に応じた選書法、読み聞かせの技術、表現力の磨き方などを体系的に学びます。

おすすめの絵本を紹介する手書きポップの制作や、即興劇の体験、人形劇の鑑賞といった実践的な授業もあり、子どもの心を惹きつける工夫を体感しながら学ぶことができます。修了者には「認定絵本土」としての認定証が交付されます。



※本講座は2025年度後期から2026年度前期にかけて複数回の集中講義として実施します。（別紙スケジュール参照）初回開講日に限らず、取材対応が可能な日程についても調整いたします。ご希望がありましたら、本学広報担当までお気軽にお問い合わせください。

◆ 広がる活躍の場

認定絵本士の活躍の場は年々広がりを見せています。

本学の修了生は、TSUTAYA BOOK STORE重信店・エミフルMASAKI店での定期的な読み聞かせ活動をはじめ、2025年10月から「いよてつ高島屋」、12月からは2025年にオープンした松山市の「こども本の森」（12/18 11:00～11:20）でも新たな読み聞かせ企画を行う予定です。

修了者からは、こんな声が聞かれます。

「絵本は読み手と子どもを繋ぐツール。絵本をめくるタイミングだったり、触りごごちや音だったり、その空間全体が生み出す良さがあると思います」

「幅広いジャンルの絵本について学ぶので、年齢や自分の経験だけからの選書ではなく、子どもたちの興味関心に合わせて選書できます」

いよてつ高島屋 絵本イベント



TSUTAYA BOOK STORE



松前町図書館



▶ 延べ155名が修了、希少資格「絵本専門士」も誕生

これまでに累計155名が資格を取得し、毎年約30名の認定絵本士が新たに誕生しています。修了者の中には、さらに専門性を高めて上位資格の「絵本専門士」へと進む人材も登場しています。県内の絵本専門士はわずか10名（2025年6月時点）と非常に希少です。

地域の読み聞かせ講座など多様な場で活躍し、地域社会と子どもたちをつなぐ担い手として活動のフィールドを年々広げています。

【修了者数】

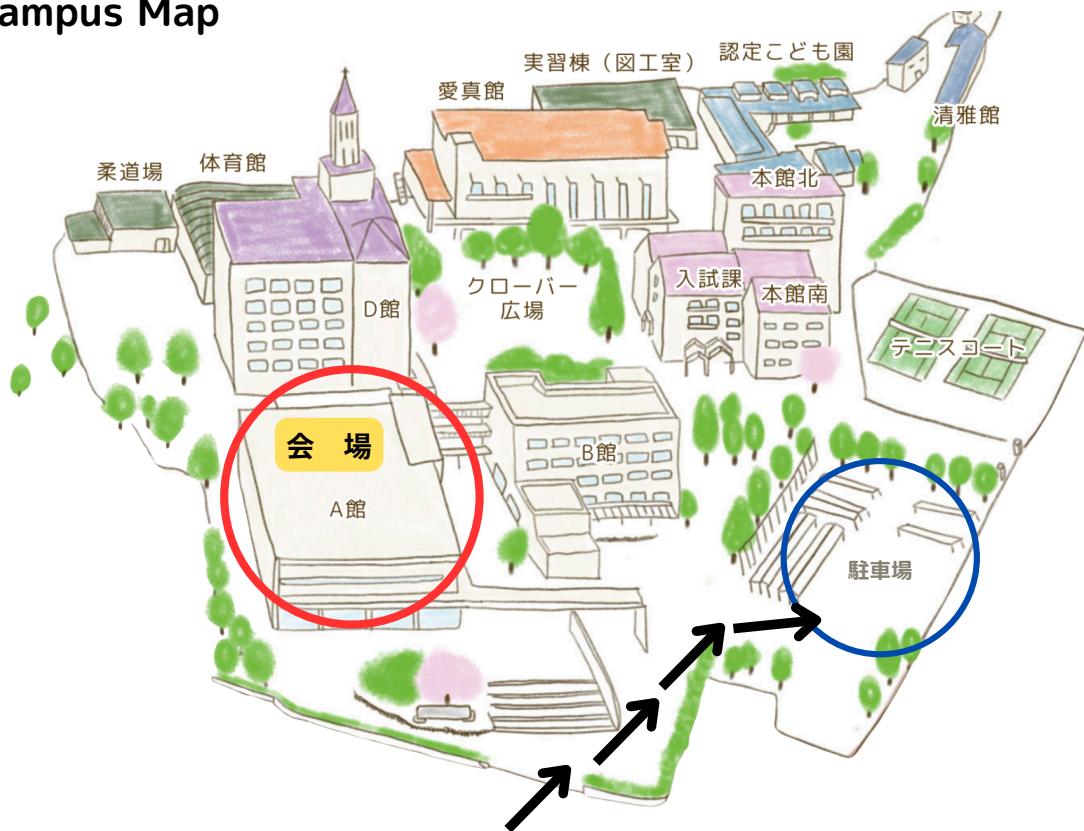
2020年後期－2021年度前期	35名（内、科目等履修生2名）
2021年後期－2022年度前期	32名（内、科目等履修生2名）
2022年後期－2023年度前期	31名
2023年後期－2024年度前期	30名（内、科目等履修生1名）
2024年後期－2025年度前期	27名（内、科目等履修生2名）

▶ 絵本が果たす新たな役割 — 社会の変化とともに

デジタル化が進む現代でも、絵本の読み聞かせは「聞く力」や「想像力」を育み、非認知能力や親子の愛着形成に深く関わる営みとして再び注目されています。家庭や地域のつながりが希薄になりがちな今、絵本は世代や立場を超えて人と人をつなぐ大きな可能性を秘めています。

本学は、絵本を通じて子どもと社会をつなぎ、地域の子育てを支える力を持つ人材を育成することで、地域に根ざした子育て支援の輪を広げていきます。これからも「絵本」で、学生・保護者・地域が協働して子どもたちの育ちを支える社会の実現をめざします。

Campus Map



※ 取材の際は事前にご連絡いただけますと幸いです。

【お問い合わせ・ご連絡先】

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 広報

松山市桑原3丁目2-1 電話：089-931-6211(代)

Mail : kouhou@shinonome.ac.jp



大学HP 広報ページ

2025年度 第6期「メディアとしての絵本Ⅰ」授業計画

回	日時・教室	時間	概要	担当者
1	10/26(日) A-1-2	2限	オリエンテーション	影浦
2		3限	絵本とは何か【絵本総論】	影浦・菅(絵本専門士)
3		4限	絵本の歴史や絵本賞について【絵本各論①】	西村
4	12/20(土) A-1-2	2限	視覚表現・言語表現から見た絵本【絵本各論②】	明本
5		3限	子どもの知的・社会的発達と絵本との関わり【絵本各論③】	鏡原
6		4限	メディアとしての絵本の位置づけ【絵本各論④】	飯尾
7	1/31(土) 本-4-1	2限	物語の絵本【さまざまなジャンルの絵本①】	影浦
8		3限	昔話、童話を基にした絵本【さまざまなジャンルの絵本②】	蔵前
9		4限	科学絵本【さまざまなジャンルの絵本③】	出原(むぎの穂保育園園長)
10	2/28(土) A-1-2	2限	はじめての絵本との出会い【絵本と出会い①】	渡部(絵本専門士)
11		3限	子育て・保育・教育の場での出会い【絵本と出会い②】	影浦
12		4限	支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割【絵本を紹介する技術③】	柴崎(愛媛ボランティア学習研究会事務局長)
13	3/14(土) 図書館 A-1-2	2限	絵本を探す技術【絵本の世界を広げる技術①】	武知(図書館司書)
14		3限	ブックトークの技術【絵本を紹介する技術①】	菅(絵本専門士)
15		4限	書評・紹介文の書き方【絵本を紹介する技術②】	菅(絵本専門士)